

過疎地の大空

ドローン飛べ

人口減少による過疎化に苦しむ恵那市上矢作町が今夏、小型無人機ドローンで盛り上がる。地域商社ジバスクラム恵那(恵那市大井町)が招致した、ドローン関連事業を手掛ける「ロボッツ」(郡上市美並町)が7月下旬にも町内にドローンショップを開設し、拠点にして関連事業を展開する予定だ。長野県境の山深い町の上空をドローンが飛び交う景色が見られることになりそうだ。

(三輪真大)

運営などを手掛けるロボッツと恵那市の協定締結を先導。同社は8月にも本社を上矢作町に移転することになった。



恵那市と市観光協会の出資で1月に発足した地域商社ジバスクラム恵那が着目したのが、市場として成長を続けるドローンだった。パイロット養成スクールの

同社のショップは、町内の道の駅「上矢作ラ・フォーレ福寿の里」に7月下旬に開設される。誰でも実際に触れられ、購入できる。軽量なため規制の少ない海外産の小型ドローン3機種を手始めに販売する。近くにある宿泊施設周辺では操作体験会も開く予定。

同社によると、建築業者や自治体からのドローン講習の申し込みが増加傾向にあるという。石田宏樹社長は「上矢作町に、ドローンの最先端技術に手軽に触れられる場をつくりたい。規制の多い都市部、人口密集地に対し、地方は規制が少ない点で、ドローン関連事業が発展する伸びしろは大きい」と指摘する。

市も環境整備の面で支援する方針。本年度一般会計当初予算に、町内の上矢作グラウンドの一部をドロー

ンの飛行場として整備する費用400万円を計上。パイロット養成講習の会場にも使える26平方メートルのプレハブ建屋を9月にも建てる計画だ。ファンを増やそうと、楽しさを伝えるイベントの開催費用50万円も盛り込んでいる。

上矢作町の人口は、合併直前の約2600人から、今月時点で1751人へと減少の一途をたどる。恵那市や観光関係者は、比較的に珍しいドローンビジネスを切り口に、まずは上矢作町と都市部との交流人口を増やしていく考えだ。

恵那市上矢作町、来月ショップ開設

交流人口増の切り札に



ロボッツのドローンショップが開設される道の駅「上矢作ラ・フォーレ福寿の里」= 恵那市上矢作町